

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（滋賀大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導と進路指導
教員名（専門分野）	近藤 文良（教育心理学）、若松 養亮（職業心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 273名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>近藤①生徒指導の理念（生徒指導の立場、カウンセリングマインドとリーガルマインド）</p> <p>②生徒指導と自己形成（思春期の理解、友人関係、アイデンティティの形成）</p> <p>③生徒指導と支援のあり方（学校ストレス、ソーシャルサポート、集団づくり）</p> <p><u>④問題行動の理解と問題行動の指導（不登校、いじめ、校内暴力などの現状と課題、指導のポイント）</u></p> <p>若松①進路指導が目指すもの</p> <p>②能力・適性をどう把握すべきか</p> <p>③進路の情報や知識を豊かにする</p> <p>④検査の利用と進路相談</p>

【授業内容】

第4回目の講義で生徒指導上の諸問題（不登校・いじめ・問題行動）を扱う。

いじめについては次の項目を講義する。

- 1) いじめの現状
- 2) いじめの定義
- 3) 問題のとらえかた（いじめへの対応原則）
- 4) 予防の方法
- 5) 実際の介入の方法

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（滋賀大学・教育学部）

授業科目名	教育相談の理論と方法
教員名（専門分野）	芦谷 道子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 296名
対象課程・対象学年	<input type="checkbox"/> 学部・ <input type="checkbox"/> 修士・ <input type="checkbox"/> 教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>I 教育相談の理論と方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の現場における相談活動のあり方 2. カウンセリングマインドとは 3. 心理療法の理論と実際－来談者中心療法・遊戯療法・芸術療法 <u>4～5. 子どものこころの問題</u> 6～7. 軽度発達障害への対応 8. 心理検査とアセスメント <p>II 教育相談の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 9～14. 実践事例の解説

【授業内容】

- ・ いじめに関する基本的概念、歴史、現代性について解説。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（滋賀大学・教育学部）

授業科目名	学校人間関係論
教員名（専門分野）	芦谷 道子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ その他（免許状取得のための科目ではない。）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 29名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2～4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>I 学校における子どもの人間関係の問題の現状に関する理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの仲間関係の発達 ・対人スキルを学ぶ ・保護者対応のコツ ・未来志向アプローチ ・児童虐待の実際 <p>II 子どもへの対応の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用行動分析 ・社会性の学習 ・情動の学習 <p><u>III 学校における子どもの人間関係の事例を通じた学びと対応</u></p>

【授業内容】

- ・いじめに関する基本的な概念、歴史、統計、研究結果について学び、特に現代に特有のいじめの特徴について考察する。
- ・事例を元に教師としての望ましい対応をグループで話し合う。
- ・いじめ相談のロールプレイを行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学部）

授業科目名	教育社会学
教員名（専門分野）	村上 登司文（教育社会学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職の基礎理論に関する科目 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
単位数・受講者数	2単位 ・ 230名（2クラス分）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育社会学とは 2 現代社会の変化 3 家族の変化 4 子どもが生きる世界 5 若者が生きる世界 6 学校制度と社会 7 学級経営と学級崩壊 8 学校文化 9 グローバル化と教育 10 メディアと教育 <u>11 教育問題といじめ</u> 12 平和教育と社会 13 競争と平等 14 社会体験と社会貢献 15 まとめ

【授業内容】

(第11回：教育問題といじめ)

1. 教育問題とは

①何が問題か

②問題視と問題化

○教育問題への反応

子どもの問題

○学校に関連する問題 ○外部要因

2. いじめとは

具体的行為

いじめの定義 (森田洋司 1986)

2006年度の文科省定義

図1 いじめの4層構造

図2 いじめの認知(発生)件数

いじめの理由

加害者側の理由

いじめたい理由

欲求不満解消 攻撃行動の見通し、カタルシス

優越感の満足(心理的規制)

3. ネットいじめ

「ネット上のいじめ」の例

学校での対応、

- ・携帯電話やインターネットの利用実態を十分に把握
- ・「情報モラル」教育の一層の充実
- ・「学校裏サイト」など学校非公式サイトの巡回・閲覧活動

学校裏サイト

○現代的いじめの特徴

いじめが見えにくい。加害者-被害者の立場の入れ替わりが見られる。どんな差異(例:好成績、正義感が強い)でも負のレッテルとなりうる。いじめが集団化して行われる(集団いじめ)

○子どものキャラ化と、「スクールカースト」

○ネットいじめ

○いじめの見え方 小中学校の教師が対象 (出典:千葉県調査、1996)

○いじめ問題は どうやって発見されたか

4. いじめへの対応

夜間帯の相談の時間帯別割合

いじめ相談内容の内訳

いじめへの対応 開発的指導、予防的指導、対症療法的指導、

いじめ対策 誹謗中傷・いじめから子どもを守る「ネット・トラブル情報デスク」

／京都市 教育委員会事務局 情報化推進総合センター

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学部）

授業科目名	学校教育と法規
教員名（専門分野）	竺沙 知章（学校経営）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	（課程認定外の科目である）
単位数・受講者数	2単位 ・ 5名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育に関する基本法規 2 義務教育に関する法規 3 学校の管理運営に関する法規 4 学校、教員の自由と責任 5 生徒指導に関する権限と責任 6 校則をめぐる法的問題 <u>7 いじめに関する学校、教員の責任</u> 8 子どもの安全を守る責任（1） 9 子どもの安全を守る責任（2） 10 教員の服務義務 11 教員に対する処分 12 教員の勤務条件 13 教員の研修に関する義務と制度 14 事例演習 15 講義のまとめ

【授業内容】

(第7回：いじめに関する学校、教員の責任)

いじめに関して学校、教員に対してどのような法的責任、義務が求められるかを、事例に即して、過去の判例も参照しながら、概説し、学生に考えさせる内容である。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導・教育相談 I
教員名（専門分野）	西村 佐彩子 （教育臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 79名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 生徒指導・教育相談の意義と役割（1） 3 生徒指導・教育相談の意義と役割（2） 4 小学校における発達課題（1） 5 小学校における発達課題（2） 6 問題行動への理解と対応 7 不登校について 8 発達障害について（1） 9 発達障害について（2） 10 学級崩壊について <u>11 いじめについて</u> 12 虐待について 13 教育相談の基本的態度と進め方 14 カウンセリングの方法（ロールプレイ） 15 まとめ

【授業内容】

(第11回：いじめについて)

- ・いじめへの認識、いじめの構造と経過、いじめへの対応などについて講義を行った。
文科省による資料、テキスト「図説子どものための適応援助—生徒指導・教育相談・進路指導の基礎(北大路書房)」、配布資料を使用した。
- ・いじめをテーマに、小グループによるディスカッションの時間を設け、グループで出た意見の発表を行ってもらうことで受講者の考えを共有しながら授業を進めた。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導・教育相談 I
教員名（専門分野）	泉 裕幸
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 88名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 「生徒指導概要」をもとに、生徒指導・教育相談の意義と原理について考える。 2 <u>学校教育の中で生徒指導・教育相談の果たす役割について～教育改革の動向をふまえて～</u> <u>「いじめ問題についてのディベート」(ビデオ)を通して考える。</u> 3 子どもたちの実態と教育的課題について 4 生徒指導についての基本的な考え方～自己指導能力の育成をめざして～ 5 学校教育における生徒指導の機能と組織～教職員・保護者・地域の連携・協力～ 6 学校現場における生徒指導の具体的な実践例～のぞましい学級経営のあり方について～ 7 教育相談についての基本的な考え方～カウンセリング・マインド～ 8 学校教育における教育相談の機能と組織 9 学校現場における教育相談の具体的な実践例 10 子どもたちのさまざまな問題を考える(1) 11 子どもたちのさまざまな問題を考える(2) 12 <u>子どもたちのさまざまな問題を考える(3)「いじめ問題の実態とその背後要因について」</u> 13 <u>子どもたちのさまざまな問題を考える(4)「いじめ問題の解決と未然防止について」</u> 14 子どもたちのさまざまな問題を考える(5) 15 前期の講義のまとめ

【授業内容】

(第2回：学校教育の中で生徒指導・教育相談の果たす役割について～教育改革の動向をふまえて～

「いじめ問題についてのディベート」(ビデオ)を通して考える。)

社会生活の変化や価値観の多様化し、家庭生活が大きく変貌する中で、子ども達の姿も変化し、学力の低下、倫理観や規範意識の低下、欲求不満耐性の低下、コミュニケーション能力の低下、犯罪の低年齢化と凶悪化、性行動の低年齢化、基本的な生活習慣の乱れ、校内暴力、不登校、いじめ、児童虐待など、様々な問題が起こってきている。そこで、教育法規・教育制度・教育内容において教育改革がすすめられてきた。今回の教育改革は、学校だけではなく、社会総がかりで行うことが求められている。このような教育改革の動向をふまえて、学校教育活動の中で果たす生徒指導・教育相談の役割が非常に大きくなってきていることを知る。いじめは時には大切な人の命をも奪う大変深刻な問題である。いじめは著しい人権侵害であり、決して許すことのできないことである。いじめ問題をめぐっては、昨今、学校や教師の対応に対して社会から大変厳しい意見が出されている。教師は常に児童との信頼関係を築きつつ、日々のきめ細かな観察により、いじめの早期発見に努めなければならない。万が一いじめが見つかった場合には、いじめられている者の立場に立って毅然とした態度で解決を図っていかなければならない。テレビのディベート番組「いじめは教師の責任か」を視聴して、学者、教員、カウンセラー、いじめ被害者、海外在住者など様々な立場からの意見や実践事例を聞き、学校や教師のいじめ対応に対する社会の厳しい意見があることを知るとともに、いじめの問題は単に学校や教師だけの責任ではなく、要因が大変複雑な事例が多く、社会、家庭にもその責任がある場合も多い。そのために解決にあたっては学校・地域・家庭が互いに連携・協力して取り組まなければならないものの、とりわけいじめ解決に向けて教師の果たす責任と役割が大きいことを知る。その対応に教師としてのありようや資質が問われていることを知る。

(第12回：子どもたちのさまざまな問題を考える(3)「いじめ問題の実態とその背後要因について」)

いじめの件数は一時減少傾向にあったが、いじめられている児童・生徒の立場に立っていじめの定義が見直されることにより、再び増加する傾向にある。いじめは時には自殺という最悪の結果を生む痛ましい問題である。最近のいじめは、ネットいじめなど、年々みえにくくなり、より潜在化、陰湿化してきている。また、文科省の調査結果からも指摘されているように、いじめるもの、いじめられるものが固定していないために、自分がいじめられないように、クラスのいじめに積極的に加担するも傾向がみられる。また、いじめるもの、いじめられるものだけでなく、観衆、傍観者の存在がよりいじめを助長する傾向がみられる。(いじめの4層構造)ビデオ「書き込みテレビ～いじめを考えよう～」を視聴し、全国のいじめにあった児童・生徒やいじている児童・生徒の双方の生の声を聞き、いじめ問題の複雑さと深刻さについて知り、いじめ問題の背景に何があるのか探るとともに、いじめの早期発見・早期解決の方法ならびに未然防止について考える。

(第13回：子どもたちのさまざまな問題を考える(4)「いじめ問題の解決と未然防止について」)

いじめを解決するには、いじめの早期発見・早期対応が何よりも必要である。教師は常に子どもたちの様子を観察し、子どもの変化やSOSを見逃さないように努めなければならない。万が一にもいじめが疑われる状況が生じた時には、被害者の立場に立ち、寄り添い、心のケアを図るとともに全校体制で被害者をいじめから守り、早急に解決しなければならない。解決に当たっては、いじめの四層構造を踏まえ、被害者や加害者への指導だけではなく、観衆や傍観者など第三者への指導や働きかけも大切である。また、加害者への指導の際には、加害者にいじめがなぜいけないのかを理解させることは勿論、加害者がいじめに至った背景も踏まえて加害者のよりよい成長を促す指導を行うことも大切である。さらにいじめが起きない学級集団作りを目指して、一人ひとりの安全や人権が守られるようなルールの確立を図るとともに、互いのよりよい人間関係が築かれるようにすることが大切である。(居場所作り)

また、積極的に「構成的グループエンカウンター」や「ソーシャル・スキル・トレーニング」、「ストレスマネジメント」など開発的カウンセリングの技法を取り入れ、子どもたちが自己や他者を理解し、互いによりよい人間関係を築いたり、感情を抑制したりしていけるようにすることも必要である。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導・教育相談Ⅱ
教員名（専門分野）	内田 利広 （教育臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 90名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	1 オリエンテーション：グループ分け 2 発達課題からみた生徒の理解：思春期 3 暴力行為 <u>4 いじめ</u> 5 非行・薬物 6 不登校 7 神経症・場面緘黙 8 グループごとの課題に対するまとめ1（プレゼンテーション） 9 グループごとの課題に対するまとめ2（プレゼンテーション） 10 グループごとの課題に対するまとめ3（プレゼンテーション） 11 保護者への対応 12 虐待・自傷行為 13 暴力・授業妨害；具体による場面指導 <u>14 いじめ；具体例による学級での場面指導</u> 15 まとめ

【授業内容】

(第4回：いじめ)

テキストに従って、いじめの解説を行い、さらにその構造としてのいじめの4層構造について説明を行った。

(第14回：いじめ；具体例による学級での場面指導)

いじめにつながりそうな場面設定を行い、その際に担任としてどのような指導を行うかを場面指導の課題として提示し、各自で考えてもらい、それぞれ班の中で指導場面を実施に行ってもらおう。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導・教育相談Ⅱ
教員名（専門分野）	泉 裕幸
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 89名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導・教育相談の基本的な考え方 2 生徒指導・教育相談の具体的な進め方① 3 生徒指導・教育相談の具体的な進め方② 4 青少年の問題①「校内暴力の問題」キレる行動の背景を理解する 5 青少年の問題②「悩みと不安に苦しむ思春期の子どもたち」 6 青少年の問題③「不登校問題」「不登校問題の実態とその対応について」 7 第1回グループ討論会「不登校問題に対する対応を考える～ある不登校生徒の事例を通して」 8 <u>青少年の問題④「いじめ問題」「いじめ問題の実態とその対応について」</u> 9 <u>第2回グループ討論会「いじめ問題に対する対応を考える～ある被害生徒の事例を通して～」</u> 10 青少年の問題⑤「虐待問題」「両親から虐待を受けた少女の心の病を理解する」 11 第3回グループ討論会「虐待を受けた生徒への対応を考える～ある少女の事例を通して～」 12 青少年の課題⑥「青少年の性行動の問題」「青少年の性行動の低年齢化の実態と学校における性教育」 13 第4回グループ討論会「性行動の低年齢化に対する対応を考える～ある少女の事例を通して～」 14 青少年の問題⑦「青少年非行の問題」「青少年犯罪の実態と少年法」 15 第5回グループ討論会「犯罪少年の処遇について考える～ある少女の犯罪事例を通して～」

【授業内容】

(第8回「青少年の問題—いじめの実態とその対応について」)

いじめの件数は一時減少傾向にあったが、いじめられている児童・生徒の立場に立っていじめの定義が見直されることにより、再び増加する傾向にある。

いじめは時には自殺という最悪の結果を生む痛ましい問題である。最近のいじめは、ネットいじめなど、年々みえにくくなり、より潜在化、陰湿化してきている。また、文科省の調査結果からも指摘されているように、いじめるもの、いじめられるものが固定していないために、自分がいじめられないように、クラスのいじめに積極的に加担するも傾向がみられる。また、いじめるもの、いじめられるものだけでなく、観衆、傍観者の存在がよりいじめを助長する傾向がみられる。(いじめの4層構造)

いじめを解決するには、いじめの早期発見・早期対応が何よりも必要である。教師は常に子どもたちの様子を観察し、子どもの変化やSOSを見逃さないように努めなければならない。万が一にもいじめが疑われる状況が生じた時には、被害者の立場に立ち、寄り添い、心のケアを図るとともに全校体制で被害者をいじめから守り、早急に解決しなければならない。解決に当たっては、いじめの四層構造を踏まえ、被害者や加害者への指導だけではなく、観衆や傍観者など第三者への指導や働きかけも大切である。また、加害者への指導の際には、加害者にいじめがなぜいけないのかを理解させることは勿論、加害者がいじめに至った背景も踏まえて加害者のよりよい成長を促す指導を行うことも大切である。

さらにいじめが起きない学級集団作りを目指して、一人ひとりの安全や人権が守られるようなルールの確立を図るとともに、互いのよりよい人間関係が築かれるようにすることが大切である。(居場所作り)

また、積極的に「構成的グループエンカウンター」や「ソーシャル・スキル・トレーニング」、「ストレスマネジメント」など開発的カウンセリングの技法を取り入れ、子どもたちが自己や他者を理解し、互いによりよい人間関係を築いたり、感情を抑制したりしていけるようにすることも必要である。

(第9回「第2回討論会「いじめ問題について考える—テレビ番組『子どもの声に聞いて』を視聴して」)

いじめを苦にして「死にたい」と思うほど悩んでいた男子中学生の親が学校に相談するが、教師からは「いじめでない」と言われ、思いあまって市の相談機関の「子どもオンブズクラブ」に相談したところ、思い悩む男子中学生の話を丁寧に聞いてくれ、男子生徒への「声かけ」を学校に働きかけてくれたことで、ようやくいじめがやんだ。

テレビ番組「子どもの声を聞いて」の中の事例を通して、いじめの早期発見やいじめへの対応・解決について、グループ・ディスカッション形式で話し合う。

学校や教師は、どのようにしていじめを見逃さないようにするのか、それとともに、いじめが見つかった場合には、加害生徒や観衆・傍観者の生徒にどのような指導をするべきか、被害生徒の心のケアをどのようにするのか、加害生徒のいじめの背景にはどのような問題があるのかについても話し合うとともに、いじめの再発防止のための学級作りや学校の教育相談体制についても考える。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導・教育相談Ⅱ
教員名（専門分野）	本間 友巳（教育臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 11名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	1 オリエンテーション 2 思春期・青年期の心身の発達1 3 思春期・青年期の心身の発達2 4 生徒指導・教育相談の意義と実際 5 進路指導の意義と実際 6 思春期・青年期と家族 7 カウンセリングの理論と実際 8 教育課題への理解 9 不登校・ひきこもり <u>10 いじめ</u> 11 非行・暴力行為 12 発達障害 13 精神疾患 14 危機とその対応 15 まとめ

【授業内容】

(第10回：いじめ)

1. 人権侵害の視点から、いじめの位置づけを行った。
2. 日本における学校でのいじめについて、その定義や考え方や対応の変遷について、歴史的経過に沿って解説した。
3. いじめの集団的構造（4層理論）について説明した。
4. 被害者の心理やその影響を中心にして、加害者や傍観者の心理についても説明した。
5. いじめ関連自殺について解説した。
6. いじめの予防や対応のポイントについて説明した。
7. 以上の内容を、質疑や討議を交えながら、説明していった。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学部）

授業科目名	情緒障害児特講
教員名（専門分野）	滋野井 一博
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	【特支免】免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 4名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもを見つめる視点（教育的・療育的・医学的視点） 2 発達とその障害 3 乳幼児期における心の発達 4 児童期および青年期における心の発達 5 心の機能とメカニズム 6 心の問題とその援助のあり方 7 情緒障害の定義 8 心身症と神経症の概念 9 不登校の概念とその変遷 10 不登校の臨床像の分類と心理的・教育的援助のあり方 11 <u>いじめの定義・構造・要因とその対応</u> 12 発達障害に対する基本的理解 13 注意欠陥多動性障害・学習障害・自閉性障害の定義とその特性 14 発達障害児に対する心理的・教育的支援のあり方 15 心的外傷後ストレス障害に対する基本的理解と心理的・教育的支援のあり方

【授業内容】

(第11回：いじめの定義・構造・要因とその対応)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大阪教育大学・教育学部第二部）

授業科目名	生徒指導論
教員名（専門分野）	園田 雅春（教育方法学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 77名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3回生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	第1回オリエンテーション 第2回～第3回生徒指導のあり方と基本的な視点 第4回学校現場における生徒指導の現状と課題 第5回子ども理解と生徒指導の実際 第6回～第7回生徒指導と学級集団形成 第8回～第10回学級集団形成の実践的方法論 第11回～第12回いじめ問題・不登校と教師のあり方 第13回学級崩壊現象について 第14回子どもの集団的自尊感情形成の意味と方法 第15回試験を行なう

【授業内容】

(第 11 回～第 12 回いじめ問題・不登校と教師のあり方)

・生徒指導論の全講義の基底に、つねに一人一人の子どもが「自分が大事にされている」と、実感できる学校生活をいかにつくり上げていくのが重要であり、そのため人権の視点を重視した「学級経営」「授業創造」、そして「自尊感情」の形成がポイントであることを据えている。これが「いじめ問題を引き起こさない学校・学級づくり」の基盤と考えてのことである。

特に、「いじめ問題」に直接かかわる内容としては、

- ・いじめの実態に関するデータの紹介と分析
- ・テレビ放映のビデオを観て、問題点の把握とその解決の方途をグループで話し合い、発表
- ・「いじめの 4 層構造」の解説と子どもの心理
- ・インシデントプロセス法によって「いじめ問題」の事例を考察し、その解決についての議論などを行っている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大阪教育大学・教育学部第二部）

授業科目名	倫理学特講
教員名（専門分野）	岩田 文昭（哲学, 宗教学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 32名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4回生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に 下線)	<p>第1回いのちの教育とは:いのちのイメージ</p> <p>第2回子どもと悪：グリム童話（ヘンゼルとグレーテル）</p> <p>第3回教育といのちの自覚：国語教科書の中のいのち</p> <p>第4回性といのち</p> <p>第5回内なる優性思想</p> <p>第6回道徳の副教材といのち：ブラック・ジャックをめぐる</p> <p>第7回家族のつながりと自殺</p> <p>第8回いじめといのち</p> <p>第9回いのち授業のビデオ：金森俊朗先生</p> <p>第10回にわとりを食べる授業</p> <p>第11回いのちの教育の現状</p> <p>第12回大切な人と自己：死のあり方</p> <p>第13回さまざまな死生観</p> <p>第14回脳死と臓器移植</p> <p>第15回まとめ</p> <p>試験</p>

【授業内容】

(第8回いじめといのち)

いじめで自殺した生徒の遺書を読み、いじめを防ぐために教師に求められることを講義し考える。

受講生のいじめ体験（いじめた体験、いじめられた体験）を話してもらい、問題を具体的に捉えることを試みる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大阪教育大学・教育学部第二部）

授業科目名	生活科学Ⅲ
教員名（専門分野）	吉井 典子（家政学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 3名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4回生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	第1回 オリエンテーション 第2回 生活科学で学ぶ内容について 第3回 変動する現代の生活 第4回 家族関係の変化 第5回 家族の中の自分 第6回 命を考える 第7回 結婚，出産，育児 第8回 高齢社会を考える 第9回 介護と福祉 第10回 離婚の現代事情 <u>第11回 いじめと親の役割</u> <u>第12回 いじめと教師の役割</u> 第13回 子どもの育ちと共感性 第14回 子どもの育ちと自尊感情 第15回 最終課題

【授業内容】

(第11回 いじめと親の役割)

1. 資料（新聞）を配付し、考察させた。
2. 「いじめ」についてディスカッションを自由にさせた。
3. 「いじめ」体験者のビデオ（前半）を見た。

(第12回 いじめと教師の役割)

ビデオ（後半）を見て、ディスカッションさせる予定である。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大阪教育大学・教育学部）

授業科目名	教職入門
教員名（専門分野）	水野 治久（学校心理学）、白井 智美（教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職の意義等に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 60名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	第1回：オリエンテーション 第2回：学校を取り巻く課題と教師への期待 第3回：学校生活の一日と教員の職務 第4回：教師に求められるカウンセリングスキル 第5回：学級経営の方法 PM理論とQ-Uテストから） 第6回：学級経営の手法としての構成的グループエンカウンター 第7回： <u>不登校、いじめなど援助ニーズの高い子どものケア</u> 第8回：チーム援助について（教師同士の連携） 第9回：観察実習に向けてのワーク 第10回：観察実習1回目 第11回：観察実習の反省会 第12回：観察実習のまとめ 第13回：観察実習のまとめ 第14回：学習成果の発表会 第15回：学習成果の発表会

【授業内容】

(第7回：不登校、いじめなど援助ニーズの高い子どものケア)

1) 不登校のメカニズムと援助

不登校のタイプ分け

神経症型・無気力型

遊び非行型

家庭環境型

子どもの行動に働きかけていく援助技法

別室での支援

家庭訪問の仕方

教育サポートセンターなどの外部施設との連携の仕方

不登校に隠れた問題を発見するために (いじめ, 虐待)

保護者の支え方

教師の認知の歪みと不登校の理解

家族の雰囲気 (家族の人間関係を改善するコツ)

発達障がいがあるベースにある不登校の子どもへの視点

2) 対人ストレスラーとしての「いじめ」

ストレス理論からの理解

ストレスラーの評価とコントロール可能性, 対処行動

いじめのタイプ 関係性攻撃と顕在性攻撃

発達といじめ行動の関係

いじめの被害者はどのように教師やカウンセラーに援助を求めるのか?

被援助志向性の研究から

子どもの被援助志向性に介入することはできるのか?

介入への手がかりとしての落ち込みへの否定的な認識の改善

学級の状態といじめの発生率

学級再生の鍵であるルールとリレーション

ルール定着のための社会的スキル訓練

リレーション形成のための構成的グループエンカウンター

3) 不登校・いじめに対応できる教師とは

教師自身が助けられ上手となることが大事

チーム援助会議の必要性

チーム援助会議が上手くいくためのポイント

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大阪教育大学・教育学部第二部）

授業科目名	カウンセリング技法Ⅱ
教員名（専門分野）	相谷 登（犯罪・非行臨床心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 27名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 5回生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、評価の説明等、シラバスを事前に読んでおくこと。）</p> <p>第2回 体験学習が通じて、「自分自身を知る」ということを理解する。</p> <p>第3回 コミュニケーションにおけるチャネルについて解説する（他者理解の方法について、考えておくこと）。</p> <p>第4回 カウンセリングの基礎(1) - 「何をするのか。何が出来るのか」を考えていく。</p> <p>第5回 カウンセリングの基礎(2) - 「個人か集団か」という場と状況について考えていく。</p> <p>第6回 コミュニケーションの種類(1) - 言語情報について理解する。</p> <p>第7回 「聴くこと」の重要性について、受容と共感の観点から解説する。</p> <p>第8回 「話すこと」の難しさについて、自己呈示と自己開示の観点から解説する。</p> <p>第9回 コミュニケーションの種類(2) - 非言語情報について理解する。</p> <p>第10回 非言語コミュニケーション(1) - 言葉以外で伝わることを考えていく。</p> <p>第11回 非言語コミュニケーション(2) - 言葉以外で理解することについて考えていく。</p> <p><u>第12回 教育現場とカウンセリング(1) - いじめの事例を通して学ぶ。</u></p> <p>第13回 教育現場とカウンセリング(2) - 触法・非行の事例を通して学ぶ。</p> <p>第14回 教育現場とカウンセリング(3) - 個人・親子面談の事例を通して学ぶ。</p> <p>第15回 まとめ 試験</p>

【授業内容】

(第12回 教育現場とカウンセリング(1) - いじめの事例を通して学ぶ。)

カウンセリングの具体的内容は、児童及び生徒、その保護者への指導のあり方、励まし方、その際の話の聴き方や発言の仕方、更には問題行動があった場合の具体的な対応方法を教授します。

その一環として「いじめ問題」を取り上げ、担任をするクラスで、いじめがあった場合に、具体的に教員としてどのように対応すべきかということを、学生に考えさせながら、そのスタンダードな対応方法を教授します。

本年度に実施した教授内容は、3人による集団の1人に対するいじめの事例を架空で作成し、それを題材に受講生に考えさせながら具体的な対応方法を見つけ出させるという授業です。

なお、被害児童（生徒）への対応はもとより、3人の加害者への事情聴取や指導方法のあり方について（否認の場合を含む。）、学生に考えさせながら具体的な指導法を教授する。

保護者への対応方法についてもどうあるべきかについて教授する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大阪教育大学・教育学部第二部）

授業科目名	生徒指導の心理学
教員名（専門分野）	牧 郁子（臨床心理学（学校臨床心理学））
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 50名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3回生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方，授業ルール，授業評価等）</p> <p>第2回 今学校現場で起こっていること-児童・生徒における心理的諸問題</p> <p>第3回 システム論から考える子どもの心</p> <p>第4回 学校現場で出会う子どもの問題 - 不登校(1)</p> <p>第5回 学校現場で出会う子どもの問題 - 不登校 (2)</p> <p><u>第6回 学校現場で出会う子どもの問題 - いじめ (1)</u></p> <p><u>第7回 学校現場で出会う子どもの問題 - いじめ (2)</u></p> <p>第8回 学校現場で出会う子どもの問題 - 非行</p> <p>第9回 学校現場で出会う子どもの問題 - 心身症</p> <p>第10回 学校教育相談の実際 (1) -児童生徒の心理とカウンセリング</p> <p>第11回 発達障害 - 自閉症 (1)</p> <p>第12回 発達障害 - 自閉症 (2)</p> <p>第13回 発達障害 - 注意欠陥多動性障害</p> <p>第14回 学校教育相談の実際 (2) -保護者心理とカウンセリング</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>試験</p>

【授業内容】

(第6回 学校現場で出会う子どもの問題 - いじめ (1))

いじめの研究知見・臨床知見から、発達差要因・性別要因・加害者要因（加害者のストレス，家庭環境）を解説し，男子中学生のいじめ事例を通じて，いじめのメカニズムと対応の実際を講義した。

(第7回 学校現場で出会う子どもの問題 - いじめ (2))

いじめの学校要因を女子中学生の事例を通じて解説した上で，研究知見に基づく学校要因を解説した。さらに集団対個人の図式が招く「被害者の無力化」の観点から，いじめのメカニズム・メカニズムに基づく対処方法について講義した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大阪教育大学・教育学部第二部）

授業科目名	教育心理学特論Ⅱ
教員名（専門分野）	牧 郁子（臨床心理学（学校臨床心理学））
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 10名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3回生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方，授業ルール，授業評価等）</p> <p>第2回 学校現場の現象を科学するということ-調査研究と統計処理から見えてくるもの</p> <p>第3回 不登校を科学する（1）-グループディスカッションを通じての検討</p> <p>第4回 不登校を科学する（2）-研究・事例を通じての検討</p> <p>第5回 学級崩壊を科学する（1）-事例を通じての検討</p> <p>第6回 学級崩壊を科学する（2）-研究を通じての検討</p> <p>第7回 学級崩壊を科学する（3）-ディスカッションを通じての検討</p> <p>第8回 問題行動を科学する（1）-グループディスカッションを通じての検討</p> <p>第9回 問題行動を科学する（2）-事例・研究を通じての検討</p> <p><u>第10回 いじめを科学する（1）-ディスカッションを通じての検討</u></p> <p><u>第11回 いじめを科学する（2）-研究・事例を通じての検討</u></p> <p>第12回 自分を科学する（1）-自己分析を通じての検討</p> <p>第13回 自分を科学する（2）-マッピング・コミュニケーションを通じての検討</p> <p>第14回 ゲストティーチャーによる講義</p> <p>第15回 まとめ 試験</p>

【授業内容】

(第10回 いじめを科学する(1) -ディスカッションを通じての検討)

自身の経験を通じて、いじめの予防・低減のために教員が何かできるのかを、ディスカッションした。

(第11回 いじめを科学する(2) -研究・事例を通じての検討)

いじめの研究知見・臨床知見・事例から、発達差要因・性別要因・加害者要因(加害者のストレス, 家庭環境)・学校要因を解説した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	学校精神保健学
教員名（専門分野）	岩井 圭司（精神保健学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ <u>その他</u> （卒業のための選択必修科目ではあるが、教員免許状取得のための科目ではない）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 25名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：保健科学序論 保健科学とは何か，医学医療との相違，健康とは何か，保健科学の目的と方法</p> <p>第2回：疫学的方法論 人間集団を測定する，環境－集団－個体という3レベル，統計の効用と陥穽，疫学的因果論</p> <p>第3回：精神保健介入論 集団介入，ハイリスク法と全体法，健康教育の功罪，“脅しの健康教育”から“安心の健康教育”へ，コミュニケーション論，学校現場での健康教育</p> <p>第4回：精神的不健康の様々 精神病，神経症，パーソナリティー障害，心身症</p> <p>第5回：ストレス総論 ストレッサーとストレス，ストレスへの対処</p> <p>第6回：嗜癪行動論（含・摂食障害） 依存症について，嗜癪とはなにか，嗜癪の拡がり，アルコール依存症，嗜癪の3型，嗜好行動としての摂食障害（拒食と過食）</p> <p>第7回：心的外傷論（トラウマトロジー）総論 トラウマとは何か，トラウマ・ケアの原則と実際，PTSD（外傷後ストレス障害）</p> <p>第8回：心的外傷論各論 児童虐待，自然災害，学校防災論，防災教育の進め方</p> <p><u>第9回：いじめ，暴力，非行</u> 加害－被害関係の背景，加害者論，被害者論，介入論，社会通念といじめ</p> <p>第10回：自殺と抑うつ 諸外国との比較，若年の自殺，中高年の自殺，自殺の予防，自殺願望をもつ人への対応</p>

第11回：登校不能（不登校）

登校不能と登校忌避，ケアと対策，学校のあり方，親－不登校児－教師の“倫理観”，不登校の“培地”としての学校

第12回：発達と精神健康 思春期・青年期とは，引きこもりとニート，自立と就労の発達論的意味

第13回：学校教員のメンタルヘルス 教師ストレス，教師文化，志望動機の分析

第14回：教員の役割 健康教育再論，メッセージの場としての授業，アドボカシー

第15回：総括と提言

【授業内容】

第9回：いじめ，暴力，非行

加害－被害関係の背景，加害者論，被害者論，介入論，社会通念といじめ

いじめの神話：「最近増えた」「日本特有」

いじめの特徴：相互性の欠如：他の暴力との違い

画期論：いじめの3段階（中井）：孤立化、無力化、透明化

時代変遷：支配－服従のいじめから、蹂躪－排除のいじめへ

予防と対応のために：子どもだけの問題ではないこと、加害者対策だけでは効果は期待できないこと

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	学校心理学とカウンセリング
教員名（専門分野）	浅川 潔司（発達心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ <u>その他</u> （卒業のための選択必修科目ではあるが、教員免許状取得のための科目ではない）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 2名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回：講義のガイダンスとオリエンテーション</p> <p>第2回：教育モデルに基づく学校カウンセリングとは</p> <p>第3回：北米地域における学校カウンセリングの実際と学校カウンセラー</p> <p>第4回：我国の生徒指導と学校カウンセリング</p> <p>第5回：不登校生徒の支援に活かす学校カウンセリングの理論と活動</p> <p>第6回：不登校期間中に児童・生徒が考えること、行う事柄について</p> <p>第7回：学校カウンセラーの不登校児童・生徒へのかかわり方と保護者への支援</p> <p>第8回：不登校支援のための教師とカウンセラーの役割分担</p> <p>第9回：<u>学校におけるいじめ問題への学校心理学的アプローチ</u></p> <p>第10回：特別支援を要する児童・生徒へのはたっとう支援の在り方とカウンセラーの役割</p> <p>第11回：学習障害や注意困難多動性障害を有する児童・生徒への学校心理学的支援について</p> <p>第12回：不登校支援のための学校カウンセラーと地域との協力</p> <p>第13回：学校カウンセリングと種々の心理資格</p> <p>第14回：ビデオで学ぶ発達障害とその支援方法</p> <p>第15回：講義のまとめと試験</p>

【授業内容】

第9回：学校におけるいじめ問題への学校心理学的アプローチ

時には児童生徒の不登校としてあらわれるいじめを取り上げ、その実態といじめへの対処法について、講義した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	学校教育法制論
教員名（専門分野）	日渡 円（教育行政）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ <u>その他</u> （卒業のための選択必修科目ではあるが、教員免許状取得のための科目ではない）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 5名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：I 教育法規の意義と種類（講義）</p> <p>第3回：II 「学校」の法的意味（講義） 課題設定</p> <p>第4回：III 「学校教育の諸課題」演習 教職員の不祥事</p> <p>第5回：教員免許更新制</p> <p>第6回：指導力不足教員</p> <p>第7回：君が代・日の丸</p> <p><u>第8回：いじめ問題</u></p> <p>第9回：不登校</p> <p>第10回：幼・小・中連携</p> <p>第11回：コミュニティースクール</p> <p>第12回：特別支援学校</p> <p>第13回：体罰</p> <p>第14回：義務教育費国庫負担制度</p> <p>第15回：試験</p>

【授業内容】

第8回：いじめ問題

この第8回の授業では、現在、いじめ問題そのものをテーマにするのではなく、いじめを代表する児童・生徒間の問題行動に対し、教諭、校長、教育委員でどのように対応すべきかを法的に読み解く内容としている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	学校保健Ⅲ（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）
教員名（専門分野）	西口 直希（精神医学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第4条及び第5条 中学校・高等学校1種教員免許状（保健体育）の教科に関する科目 ・「学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）」における一般的包括的内容を含む科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 15名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	第1回：イントロダクション 第2回：一次救命処置 第3回：外傷に対する応急手当 第4回：感染症 第5回：アレルギー疾患 第6回：水をめぐる生理と健康 第7回：アルコール問題 第8回：依存性薬物の問題 第9回：食にまつわる問題 第10回：健康の心身相関 第11回：精神医学概論 第12回：うつ病 第13回：学校における発達障害 <u>第14回：不登校、いじめの精神医学</u> 第15回：まとめ

【授業内容】

第14回：不登校、いじめの精神医学

不登校の原因となりうる精神疾患、ならびにいじめと関連する精神疾患として、不安障害、身体表現性障害、適応障害、統合失調症、PTSD等の精神疾患の概要について、解説する。不登校の特徴、対応の際の留意点等についても、若干の説明を行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	生徒指導論（進路指導を含む。）
教員名（専門分野）	新井 肇（生徒指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第6条第4欄 生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位・220名 （うち修士7名及び教職大学院39名を含む／査定外）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	第1回：ガイダンス：生徒指導の意義・目的・内容 第2回：進路指導とキャリア教育の意義と内容 第3回：進路指導・キャリア教育の理論的背景 第4回：進路指導における生徒理解の方法 第5回：キャリア教育の計画と実践 第6回：進路指導・キャリア教育の評価 第7回：児童生徒の問題行動の現状と生徒指導の課題 第8回：生徒指導における児童生徒理解の理論と方法 第9回：問題行動への組織的対応の理論と実際 第10回：非行問題の理解と対応 第11回：暴力行為の理解と対応 <u>第12回：いじめ問題の理解と対応</u> 第13回：子どもの自殺予防と危機対応の実際 第14回：生徒指導をめぐる時事的問題の事例研究（1） 第15回：生徒指導をめぐる時事的問題の事例研究（2）

【授業内容】

第12回：いじめ問題の理解と対応

はじめに—いじめの社会問題化

- ・中高生の自殺者数と自殺率

I. いじめ問題の難しさ

- 1 いじめを見つけることの難しさ
 - ・ いじめは巧妙に大人に見えない形で広がっていく
 - ・ いじめの被害者心理について
- 2 いじめへの対応の難しさ
 - ・ 教室の中にいじめの加害者と被害者が同居
- 3 いじめの定義の難しさ
 - ・ 日常生活の延長上で起こり、逸脱性の判定が難しい。
 - ・ 文部科学省：問題行動調査の調査基準の変更
 - ・ いじめの本質

II. 学校・学級の間関係といじめ

- 1 いじめの構造
- 2 いじめ発生の3要素
- 3 最近の子ども・若者の変質
- 4 いじめの背景となる集団のメカニズム

III. いじめの早期発見，早期対応

- 1 いじめのSOSサイン
- 2 いじめのサインに気付くには
- 3 いじめへの早期対応
- 4 いじめへの対応の視点

IV. 連携に基づくいじめ対応

- 1 子どもの心の叫びに気付く校内体制
- 2 開発的な生徒指導・教育相談の展開
 - ・ 生徒指導機能に基づく階層的支援構造
 - ・ 子どもの死生観
 - ・ ケータイ・ネットに依存する心理
 - ・ 家族の変容の中で
- 3 多面的・包括的アプローチの必要性
 - ・ 同僚性を基盤とした協働性の構築
- 4 組織的対応の実際
 - ・ 協動的な生徒指導（指導・相談）体制
- 5 危機対応における校内体制
- 6 保護者・地域・関係機関との連携

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	教育相談論
教員名（専門分野）	松本 剛（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第6条第4欄 生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位・225名 （うち修士7名及び教職大学院39名を含む／査定外）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：オリエンテーション、学校教育相談の概念規定と歴史の変遷 ＜学校教育相談実践史＞</p> <p>第2回：学校教育相談の基礎(1)：児童生徒理解の理論と実際</p> <p>第3回：学校教育相談の基礎(2)：予防的・開発的教育相談の実際，教職員のメンタルヘルス</p> <p>第4回：学校教育相談の基礎(3)：問題解決的教育相談（チームによる支援を中心に）の実際</p> <p>第5回：総括Ⅰ：試験 or レポート、総合ディスカッション</p> <p>第6回：個別支援の方法</p> <p>第7回：個別支援におけるアセスメント</p> <p>第8回：個別支援におけるカウンセリング</p> <p>第9回：個別支援におけるコンサルテーション</p> <p>第10回：総括Ⅱ：試験 or レポート、総合ディスカッション</p> <p>第11回：児童・生徒がかかえる悩みと問題</p> <p>第12回：不登校へのかかわり</p> <p><u>第13回：いじめと問題行動</u></p> <p>第14回：発達支援と教育相談</p> <p>第15回：総括Ⅲ：試験 or レポート、総合ディスカッション</p>

【授業内容】

第13回：いじめと問題行動

いじめの心理的構造

いじめの定義

「自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの」

↓変更（2007 文部科学省）

「子どもが一定の人間関係のある者から、心理的・物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」「いじめか否かの判断は、いじめられた子どもの立場に立って行うよう徹底させる」

いじめの件数も「発生件数」から「認知件数」に変更

いじめの様相

「いじめ」はいのちに関わる なかなかいじめは発見できない 見えない形でエスカレートする

いじめられている子はなぜ言わないのか？ ～ 思春期の子どもの特性；プライド・嫌われる・仕返し

SOSのサイン；表情・言葉・態度・からだ・服装・勉強

その子のところに寄り添えるようすること そうすれば、向こうも寄り添ってくる

いじめは「意識的」「継続的」に弱い立場の者へ「苦痛」を与える行為

苦痛を与えて喜んでいる 「けんか」とは違う～対等でない

いじめは「構造的」；「いじめる人」・「いじめられる人」・「見ている人」・「無視する人」、「止める人」がいない

いじめは「攻撃行動」；背景に「欲求不満」・「不安」・「葛藤」・「恐怖」といった心性 「先攻的防衛」

いじめの発現機制； 「誘 因 × 準備因」

準備因環境 ① 「不安・葛藤・恐怖・劣等感」→ 感情を強めるもの ② 個人 「性格」「耐性（克服力）」

不安・不満・葛藤の心性の背景に「優劣」や「好かれる-嫌われる」といった基準で評価する社会

「優」をめざす、「好かれる」をめざすには、自分よりも「劣位」を作らなければならない

→ 「被害者」と「加害者」を分ける根本

アドラー（Adler, A. INDIVIDUAL PSYCHOLOGY）

「叱らない」「ほめない」… これらは優劣を作るだけ

（「優」の立場の人間が、「劣」の人間に対してすること）

「普通である勇気を持つこと」が優劣を作らずにすむこと

いじめに関わる心理的技法

① 「ロールプレイ」… 「やってる側」「やられている側」「見ている人」の演技 ② 個別的なカウンセリング
一番大切なのは「誰かが側にいて支えてやること」… 教育の「育」

K. ホーナイの性格傾向分類

神経症的人格構造を形作る基本的不安に基づく認知構造、幼児期の抑圧が外在化

・「支配的-攻撃的」 ・「縮小的-依存的」 ・「断念的-逃避的」

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	人間関係とカウンセリング
教員名（専門分野）	浅川 潔司（発達心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ <u>その他</u> （卒業のための選択必修科目ではあるが、教員免許状取得のための科目ではない）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 54名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3・4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：ガイダンスとオリエンテーション</p> <p>第2回：開講時に説明します</p> <p>第3回：開講時に説明します</p> <p>第4回：開講時に説明します</p> <p>第5回：開講時に説明します</p> <p>第6回：開講時に説明します</p> <p>第7回：開講時に説明します</p> <p>第8回：児童期青年期の対人関係の発達</p> <p>第9回：児童期青年期の友情概念の形成とその発達の变化</p> <p>第10回：児童期青年期における対人関係と人格形成の関係</p> <p><u>第11回：児童期青年期のいじめとその解決プラン</u></p> <p>第12回：児童期青年期の学校不適応と学校カウンセリング的対応</p> <p>第13回：不登校とは：その実態と支援プログラム</p> <p>第14回：発達障害を有する児童・生徒への発達支援の理論と実際</p> <p>第15回：試験</p>

【授業内容】

第11回：児童期青年期のいじめとその解決プラン

とくに中学や高校で見られるいじめを取りあげ、いじめと自殺の関係についてモデルを提示したうえでその発生機序について講義した。併せて、周囲の人々がどのタイミングでいじめにどのような介入ができるのか。いくつかのプランを提示した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	兵庫の教育
教員名（専門分野）	淀澤 勝治（道徳教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ <u>その他</u> （卒業のための選択必修科目ではあるが、教員免許状取得のための科目ではない）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 75名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3・4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：オリエンテーション&兵庫県の教育史(1)：近世（江戸時代）における「兵庫」の教育</p> <p>第2回：兵庫県の教育史(2)：近代（明治時代以降）における「兵庫」の教育</p> <p>第3回：兵庫県の教育史(3)：戦後編</p> <p>第4回：兵庫県出身の実践家(1)：芦田恵之助，東井義雄，岸本裕史，大津和子など</p> <p>第5回：兵庫県出身の実践家(2)：芦田恵之助，東井義雄，岸本裕史，大津和子など</p> <p>第6回：兵庫県出身の実践家(3)：及川平治と附属小学校の訓導たち</p> <p><u>第7回：兵庫県の特色ある取組を考える(1)：「心の教育」緊急会議</u></p> <p>第8回：兵庫県の特色ある取組を考える(2)：自然学校とトライやる・ウィーク</p> <p>第9回：兵庫県の特色ある取組を考える(3)：自然学校とトライやる・ウィーク</p> <p>第10回：兵庫県の特色ある取組を考える(4)：「新たな防災教育」の推進</p> <p>第11回：兵庫県の特色ある取組を考える(5)：社会教育・生涯学習施設の現状と課題(1)</p> <p>第12回：兵庫県の特色ある取組を考える(6)：人権教育の推進</p> <p>第13回：兵庫県の特色ある取組を考える(7)：社会教育・生涯学習施設の現状と課題(2)</p> <p>第14回：兵庫県の特色ある取組を考える(8)：兵庫県内の各地域の特色ある教育(1)</p> <p>第15回：兵庫県の特色ある取組を考える(9)：兵庫県内の各地域の特色ある教育(2)</p>

【授業内容】

第7回：兵庫県の特徴ある取組を考える(1)：「心の教育」緊急会議

阪神・淡路大震災や神戸市須磨区の連続小学生殺傷事件が子どもの達の心に与えた影響を重視して、兵庫県教育委員会と神戸市教育委員会が、事件後の1997年8月、河合隼雄・国際日本文化研究センター所長を座長とする「心の教育緊急会議」を設置し、10月までに3回会議を開催した。

このことを受けて兵庫県や神戸市がどのような対策を講じたかについて概略の説明を行った。

具体的には以下の述べるようなことである。

兵庫県、神戸市両委員会は、同会議後、「心の教育の充実に向けて」と題して「現在の子ども達をより深く理解する視点」と「心の教育の課題・方向性・提言」を示した。

提言の内容として以下の5点が挙げられた。

- ・子どもは固有の内的世界を持っている。
- ・子どもは成長しつつある存在である。
- ・思春期は自己を根底から再構築する時期である。
- ・子ども達の生き方の根底には人間関係がある。
- ・子ども達は自分の感性や価値観に合った生き方を身につけていく。

これらの情報を基に、学生たちが漠然と知っている「自然学校」や「トライやるウィーク」の設立の背景を説明している。

そしてさらに、これらの提言を具体化する事業として、「父母の職場見学の実施」、「親子で体験できる活動機会の提供」、「中学校における長期体験学習の導入」、「様々な教育課題に対応する学校・家庭・関係機関等との連携システムの構築」等が位置づけられ、兵庫県教育委員会が当事業の実施を決定したことの説明を行った後に、具体的な効果や実践例を示すことで理解を深めている。また、実際に「自然学校」のプログラムを作成させることで実践的応用ができるように授業している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・学校教育学部）

授業科目名	精神医学
教員名（専門分野）	有園 博子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	その他(卒業のための選択必修科目ではあるが、教員免許状取得のための科目ではない)
単位数・受講者数	2単位 ・ 6名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：精神医学総論1</p> <p>第2回：精神医学総論2</p> <p>第3回：精神医学総論3</p> <p>第4回：器質性の疾患1</p> <p>第5回：器質性の疾患2</p> <p>第6回：発達に伴う疾患1</p> <p>第7回：嗜癖的な行動1</p> <p>第8回：嗜癖的な行動2</p> <p>第9回：統合失調症1</p> <p>第10回：統合失調症2</p> <p>第11回：気分障害</p> <p>第12回：不安障害1</p> <p>第13回：不安障害2</p> <p>第14回：人格および行動の障害(パーソナリティ障害)その他(性同一性障害など)</p> <p><u>第15回：児童に見られる気になる行動（問題行動と間違えられやすいもの）& まとめ</u></p>

【授業内容】

第 15 回 児童に見られる気になる行動（問題行動と間違えられやすいもの） & まとめ

この中で、小中学生に起こりやすい問題行動のうちの一つとして、いじめを扱っている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学部）

授業科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）
教員名（専門分野）	山本 晃輔（認知心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 122名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	教育相談（含：カウンセリング）に関する理論および事例について、 主として講義形式で授業を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の役割 2. 児童・生徒における学習活動 3. 教室内の対人関係 4. 心の健康とストレス 5. カウンセリングの理論 6. カウンセリングの技法 7. 開発的・予防的・問題解決的カウンセリング 8. <u>いじめ・不登校の理解と対応</u> 9. LD・ADHD の理解と対応 10. 広汎性発達障害の理解と対応 11. 教師のメンタルヘルス 12. 事例から学ぶ①不登校 13. 事例から学ぶ②広汎性発達障害 14. まとめ 15. 試験

【授業内容】

(第8回：いじめ・不登校の理解と対応)※いじめに関する箇所のみを記載

本講義では以下の項目について講義および視覚教材(DVD)による学習を行う。

- ・ いじめの定義(文部科学省による定義を参照とした説明)
- ・ いじめの実態と理解(講義および DVD 教材の視聴)
DVD 教材：学級担任のためのカウンセリングとその実践(第3巻いじめを生まない学校作り),
松原達哉総監修, 丸善株式会社
- ・ いじめへの対応(ロールプレイ, コンサルテーションなどの説明)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学部）

授業科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）
教員名（専門分野）	出口 拓彦（教育臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 150名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	教育相談（含：カウンセリング）に関する理論および事例について、主として講義形式で授業を行う。内容は、概ね以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の役割 2. 教室内の対人関係 3. 対人関係と学習活動 4. 学級集団と適応① 集団に関する諸問題 5. 学級集団と適応② 適応に関する諸問題 6. 心の健康について① 対人不安 7. 心の健康について② ストレス 8. 開発的・予防的・問題解決的カウンセリング 9. カウンセリングの考え方 10. カウンセリングの技法 11. 問題行動への対応と、地域や諸機関との連携 <u>12. いじめ・不登校の現状と対応</u> 13. 事例紹介① 社会的スキル・トレーニング 14. 事例紹介② ステレオタイプと偏見について考える 15. まとめ 16. 試験

【授業内容】

(第12回 いじめ・不登校の現状と対応)

いじめの現状やその構造、いじめへの対応などについて、ビデオ教材等を用いながら、講義形式で解説した。具体的には、いじめの定義、発生件数の推移や、「いじめの四層構造」(被害者・加害者・観衆・傍観者)の説明、同調への圧力、教師の対応、ローププレイを用いた対策例、いじめの予防、メディアを用いたいじめの実態、等について扱った。

また、授業の最後に、いじめの予防について学生に論じさせる課題を実施した。

—使用したビデオ教材—

「学級担任のためのカウンセリングとその実践」(丸善)シリーズのいじめ関連教材

※一部省略して使用。

—使用した資料の例—

文部科学白書 2010 「第5節 暴力行為、いじめ、不登校の解決を目指して」 pp.163-166.

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導 I（進路指導を含む。）
教員名（専門分野）	市来 百合子（臨床心理学、学校教育臨床、芸術療法）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 21名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>授業内容：講義および実習によって理解を深める。</p> <p>I.生徒指導の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 生徒指導の意義と役割 3 生徒指導の歴史と現状 4 生徒指導の校内体制と役割 5 進路指導の意義と計画 <p>II.生徒指導における教育相談の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 生徒指導/教育相談の言葉の意味するもの 7 個別面接の実習1：対児童・生徒 8 個別面接の実習2：対保護者 <p>III.学校問題についての理解と対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 不登校の理解と対応 <u>10 いじめについての理解と対応</u> 11 通常学級で発達障害を抱える児童生徒に対する対応 12 その他（非行, 虐待等）に対する対応 13 開発予防的な生徒指導の方法の紹介 14 家庭、地域、外部機関との連携 15 まとめ

【授業内容】

(第10回：いじめについての理解と対応)

- いじめの定義の変遷とその意味について
- 生徒指導センターのいじめに関する校内研修ツールをつかって自己点検シートによるいじめに対する感じ方、考え方を知り、考える。
- 一時的援助サービス（石隈）の意義といじめ抑止の関係について学ぶ

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学部）

授業科目名	学校教育相談特講
教員名（専門分野）	市来 百合子（臨床心理学、学校教育臨床、芸術療法）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 23名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>授業の方法：講義と実習によって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 教育相談の意義と役割 3 <u>学校臨床の諸問題 1（不登校、いじめ）</u> 4 学校臨床の諸問題 2（児童虐待、発達障害、非行） 5 学校カウンセリングの基礎理論 6 来談者中心療法のエッセンスについて 7 カウンセリングマインドとは何か 8 個別のコミュニケーション実習 1 9 個別のコミュニケーション実習 2 10 個別のコミュニケーション実習 3 11 開発的カウンセリングの考え方について 12 開発的カウンセリングの諸法 1：実習 13 開発的カウンセリングの諸法 2：実習 14 家庭、地域、外部機関との連携について 15 まとめ

【授業内容】

(第3回：学校臨床の諸問題 1 (不登校、いじめ)

- ・いじめの定義の変遷とその意味について
- ・生徒指導センターのいじめに関する校内研修ツールをつかって自己点検シートによるいじめに対する感じ方、考え方を知り、考える。
- ・「DVD でみる教育相談の実際」2009 中野明徳編 を使って、II いじめ・非行の理解と対応を見て、考えさせ、解説する。
- ・開発的生徒指導について学ぶ。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学部）

授業科目名	学校臨床心理学演習
教員名（専門分野）	市来 百合子（臨床心理学、学校教育臨床、芸術療法）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	1 単位 ・ 2 名（平成 2 4 年度受講者数）
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方（オリエンテーション） 2 学校における臨床心理学の意義 3 学校における臨床心理学の活用 4 <u>学校で起こる問題別の文献購読（いじめ等）</u> 5 学校で起こる問題別の文献購読（不登校等） 6 学校での心理学的支援に関する文献購読 1 7 学校での心理学的支援に関する文献購読 2 8 研究法に関する講義 1（量的研究、質的研究など） 9 学生による論文紹介 1 10 学生による論文紹介 2 13 学生の選択した研究課題の発表とディスカッション 1 14 学生の選択した研究課題の発表とディスカッション 2 15 まとめ

【授業内容】

(第4回：学校で起こる問題別の文献購読 (いじめ等))

- ・「いじめ」の定義などの基本的な概念をおしえつつ、「児童心理学」「月刊生徒指導」などの雑誌からとった基本的ないじめに対する対応の文献を読み、検討させる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導Ⅱ（進路指導を含む。）
教員名（専門分野）	池島 徳大（学校教育臨床・生徒指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 166名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	概ね、下記の内容を進める。 1 オリエンテーション・生徒指導の意義と課題 2 生徒指導の原理 3 青年期の心理と生徒指導 4 生徒理解 5 生徒指導と教育課程 6 進路指導の意義と課題 7 進路指導の原理と方法 8 学校における生徒指導・進路指導体制 9 生徒指導における教育相談の意義と進め方 10 進路指導における教育相談の意義と進め方 11 青少年非行の現状と対応 <u>12 いじめの現状と対応</u> 13 不登校の現状と対応 14 開発的・予防的視点にたつ生徒指導の在り方 15 まとめ

【授業内容】

(第 12 回：いじめの現状と対応)

ただし、今年度は、いじめ問題に対する学生の関心が非常に高く、そのため、他の内容を精選しつつ重点的に授業を行うこととした。(今年度は、後期進行中、4 コマ実施)

1 配布資料と使用したテキスト

①自作資料 パワーポイント(以下 P P) 資料「いじめ問題の理解と対応」(自作資料) を配布

- I いじめ問題に関する基本的認識
- II 子どもを取り巻く状況
- III いじめ発生の 3 要素とヴァルネラビリティへの対応
- IV いじめ解決への具体的対応

②使用した他テキスト

池島徳大監修・共著 「DVD付き ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法！ー指導用ビデオと指導案ですぐできるピア・メディエーションとクラスづくりー」 ほんの森出版 2011

3 具体的な授業内容説明

具体的な授業内容を示すために、上記①の P P 資料の内容を簡単に示す。

I・IIでは、我が国のいじめの特徴を浮き彫りにするために、これまで文科省(文部科学省)から出されたいじめの定義の変遷、昭和 60 年以来生起した過去 3 回のいじめ特徴、国際比較調査にみる我が国のいじめの特徴、そこから浮き彫りになった問題(傍観者が加齢とともに増加し、仲裁者は逆に減り続ける国際比較調査<森田ら 1999>をもとに、集団の一員としての意識が希薄化していることを指摘。その後、いじめで自殺した子どもを特集した NHK 番組「NHK スペシャル」(1995 放送)を視聴し、いじめが心に深い傷を与えることを実感させた。つまり、いじめの観念論的理解から脱し、いじめられることがいかに人の心を切り裂いていくか、心情的理解を図ることを目的として視聴した。

IIIでは、さらに、いじめが 2 者関係だけ行われるのではなく、学級の雰囲気や教師の価値観や指導観に大きな影響を与えることを、具体的な事例をもとに考えさせた。授業の対象人数は、毎年 160 名を超えるが(去年は、210 名)、ペアや近くのグループになって話し合わせた。

IVでは、重篤ないじめに発展しないように予防的視点に立って取り組むことが肝要であることを説明し、アメリカやカナダ、イギリスで実施されている、ピア・メディエーションを紹介している。対立解消の考え方を知り、導入の仕方等についてはロールプレイングで学ぶ機会をつくっている。

使用するテキストには、学校現場で日常的に起こるもめごと問題に対して現職の教員が実際に解決している場面が DVD に収められている。授業でもロールプレイングを行って学ぶが、時間的制約から授業外のホームワークとして、DVD を見てその対応の在り方についてレポートして提出させている。昨年度の受講学生からの反応であるが、いじめなどのもめごと解決の仕方がよくわかると好評である。

それから、上記とは別に、授業全般に亘って、受講学生の人間関係形成能力を高めるため、授業開始後すぐに毎時間簡単なアクティビティを実施している。例えば、「すてきな笑顔であいさつしよう」というテーマで活動を行うなどである。活動後には必ずシェアリング(ふり返り)を行い、感情の交流と言語化を図っている。また、活動後には本活動のねらい、指導者の意図などを解説し、今後の教職生活に役立つためのノウハウの伝授を行っている。大学生といえども人間関係形成能力が十分に身につけていない学生の現状を踏まえたものである。最後に、出席確認を兼ねた感想カードに学んだこと、質問などを記入させている。次回の授業に役立てるとともに、質問には必ず答えている。本授業は、学生数が多いが授業態度はよく、いじめ問題に真剣に取り組もうとする意欲が実感として伝わってくる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（和歌山大学・教育学部）

授業科目名	生徒の理解と指導A・生徒の理解と指導B
教員名（専門分野）	米澤 好史（教育心理学・臨床発達心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位・2012年度はAが90名、Bが195名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2～4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもを理解するなぜこどもを理解する必要があるのか 2. こどもを理解する際に必要なこと 3. 親子関係とこども理解 4. メディア環境 とこども 5. 攻撃性の理解 6. 教師の評価と心理アセスメント 7. 2. こどもを支援する自主性 を育てる 8. 意欲の構造と意欲支援 9. 学校の安全と安心 <u>10. いじめの心理的背景</u> <u>11. いじめ・学級崩壊への対応</u> 12. 不登校・その他の問題行動への対応 13. 進路指導と自己肯定感 14. 共感的対応と生徒指導モデル 15. まとめ・試験

【授業内容】

第10回 いじめの心理的背景

攻撃行動としてのいじめの位置づけを直接的攻撃、間接的攻撃の視点から考察し、いじめが自己原因性の高い攻撃行動であることを解説したのち、いじめられているこどもの発見とケアの大切さに加えて、いじめているこどもの心のケアの重要性を指摘し、教師としての必要な視点を以下の4つの問題点、不適切な観点を指摘して、説明している。

- ❶ いじめとは何かを理解していない（遊び、ごっこと区別できない大人と巧妙に遊びや役割固定に隠されたいじめとそれを受け入れるこどもたち）ために。いじめがあったかなかったか、この行為がいじめかいかいじめでないかと、行動や現象でいじめ判定をしまい、背景の心理や思いを理解しないこと
- ❷ いじめられるこどもだけへの支援や命の大切さキャンペーンに意識が終始すること（それも後手にまわり、結果、いじめられて自殺したこどもの弱さや本人責任追及、最後には、いじめそのものをなかったと否定して、余計、いじめられたこどもとその家族を傷つける）
- ❸ いじめをなくすキャンペーン（いじめは恥ずかしい卑怯な行為だからやめよう）もしくは、いじめるこどもの隔離、厳罰対処の必要性主張に終始して、いじめるこどもへの心のケアに思いが至らないこと
- ❹ 先駆的事件を特殊性の名の下に軽視し教訓としないこと

第11回 いじめ・学級崩壊への対応

いじめに関係する以下の現象に留意して、その支援方法とクラス作り、人間関係支援の重要性について概説している。

- ❶ 関連する現象（校内暴力、発達障害、家族病理）との結びつけをする必要があること（暴力を押さえつけるといじめとして陰湿化、匿名化すること、いじめの背景に歪んだ関係性や二次障害があること、家族の病理が学校での攻撃行動に表れること）
- ❷ 発達障害、愛着障害等の発達脆弱性といじめ、攻撃行動の関係について

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（和歌山大学・教育学部）

授業科目名	幼児の理解と支援
教員名（専門分野）	米澤 好史（教育心理学・臨床発達心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 幼児理解の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 2012年度は27名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 1～3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>1：こども理解の必要性様々な事例を通して</p> <p>2：幼児の理解と支援の方法（1）観察法・面接法をもとに</p> <p>3：幼児の理解と支援の方法（2）発達検査・知能検査等の心理検査をもとに</p> <p>4：幼児教育におけるこども理解（1）発達段階におけるこどもの特徴</p> <p>5：幼児教育におけるこども理解（2）こどもの特性と関係性</p> <p>6：幼児の遊びと支援</p> <p><u>7：こどもの心の臨床発達と保育臨床（1）気になるこどもへの対応</u></p> <p>8：こどもの心の臨床発達と保育臨床（2）人間関係と学びにおける対応</p> <p>9：子育て支援の実際（1）マクロな視点</p> <p>10：子育て支援の実際（2）ミクロな視点</p> <p>11：子育て相談・教育相談とカウンセリングマインド</p> <p><u>12：子育て支援における心理的支援・教育相談の実際</u></p> <p>13：子育て支援における発達障害への対応</p> <p>14：子育て支援における問題行動・虐待等への対応</p> <p>15：まとめ・試験</p>

【授業内容】

第7回：こどもの心の臨床発達と保育臨床（1）気になるこどもへの対応

攻撃性を示すこどもの特徴と愛着、親子関係との関連について概説し、具体的事例をあげながら、幼児の時期の攻撃的行動の問題と児童期以降のいじめとの関連について、説明する。

第12回：子育て支援における心理的支援・教育相談の実際

こどもの攻撃行動に関する保護者の相談、クレームへの対応と、保護者同士のいじめ、保護者が関与するこどものいじめ的な行動助長の実際について説明する。また攻撃性を低下させるために必要な心理的ケアについて説明する。

【授業内容】

目的：いじめの実態・いじめの構造と背景要因・いじめの対応策について理論面から実践面から学習する。

(1) いじめの実態について

- ① 文科省データによるいじめの推移紹介
- ② 大河内清輝君いじめ自殺の遺書を読む（資料配布）
- ③ 遺書に含まれたいじめのキーワードを分析する

(2) いじめの構造と背景要因

- ① 森田洋司・松浦善満他によるいじめ調査報告書から
- ② 日本のいじめの特徴
 - ・いじめの不可視性
 - ・いじめのスティグマ
 - ・いじめの集合性（4層構造論からグループ内共依存的関係におけるいじめ）
 - ・いじめの加害被害者の逆転現象
 - ・いじめの仲裁・抑止力の低下（加害行為のエスカレート化）
 - ・いじめと犯罪
- ③ いじめの定義を巡って
 - ・森田洋司らの定義
 - ・文科省の定義の変遷
 - ・D・オルウェーズの定義
 - ・その他の研究者（内藤朝雄・折出健二・今津孝次郎他）

(3) いじめの対応策・解決方法について

- ① 日本と外国のいじめの特徴と相違（国際調査結果から）
- ② 重篤ないじめに対する緊急避難
- ③ いじめの初期対応と予防的対応

(4) 研究室でのいじめ対応実践モデルについて

- ① ピアサポート・SST・アサーションモデル・CAPプログラム
- ② 構成的エンカウンターグループ
- ③ いじめの発見方法
- ④ 大阪府岬中学校での実践（ビデオ）
- ⑤ 大阪府深日小学校での実践紹介（報告書）